

ふるさと の誇り 137



博レポート

重要文化財「浅間神像」特別公開への道



現在、市が推進している「ふるさと博物館」の理念のひとつとして、「市内に眠る素材を発見し、磨き、正しい価値付けをあたえることで輝きだす」というものがあります。



木造浅間神像 平安時代(11世紀)

後に国の重要文化財にもなったその経緯は、左のページのとおりですが、現在は、地域の誇る「たからもの」との認識も定着し、平成三十一年の元日には、その特別公開も行なわれます。

その過程は、左のように推移していて、まさに、現在のふるさと博物館の理念の一部に合致するような事例であったことがわかります。現在本格化している「博」の活動を通じて、まだまだたくさん地域の「たからもの」が明らかとなり、ふるさと教育や、地域のまちづくりなどに活用されていくことでしょう。

新年もみなさん、〇博をどうぞよろしくお願ひします。
文／三夏 文化財課

今回は、その大きさがけともなつた事例をひとつご紹介いたします。それが、市が平成十八年度から二十二年度にかけて実施した、市内の仏像や神像をくまなく調査し、記録としてまとめた「市内仏像等悉皆調査事業」の過程で再発見された資産のひとつ、江原浅間神社のご神体「浅間神像」です。



浅間神社神像(正面)

昭和48年(1973)、『甲西町誌』が写真と解説をはじめて掲載。この時は、やや新しい、室町時代の作である可能性が指摘されたが、その後38年間、本像に言及した研究、刊行物等はない。

平成21年(2009)10月：平成18年度から5か年をかけて実施していた仏像等の調査の一環として、地域の協力のもと、市が改めて詳細な調査を実施。

平成23年(2011)3月：5年間の調査の成果をまとめた報告書が刊行される。この中で本像を浅間神社の神像としては、現在確認されている中で最も古い11世紀頃の作と位置づけた。

平成24年(2012)3月：山梨県発行の『富士山総合学術調査研究報告書』において、本像を富士山信仰にかかわる最古の像として掲載。

平成24年(2012)6月：文化庁調査官による現地調査



文化庁の調査

平成24年(2012)11月：文化庁の要請に応じ、宗廟を浅間神社として、詳細な調査のため文化庁への遷座(移送)を正式に決定。12月には文化庁へ遷座。

平成25年(2013)2月：国の文化審議会において本像を重要文化財に指定するよう答申が出される。

平成25年(2013)4月～5月：東京国立博物館において特別公開「平成25年 新指定国宝・重要文化財展」

平成25年(2013)6月19日：官報告示(正式指定)



指定書

平成26年度：京都の公益財団法人美術院において像の修復および保管箱の製作【国庫補助事業】

平成27年度：安置される浅間神社に監視カメラやセンサー等防災・防犯設備を設置【国庫補助事業】

平成27年(2015)9月～11月：世界遺産登録記念特別展「富士山―信仰と芸術―」静岡県立美術館／山梨県立博物館に山梨県を代表する文化財として出展。

特別公開

江原浅間神社では、拝殿の改修工事の完成を記念して、元日に重要文化財「浅間神像」の特別公開が行なわれます。普段は、信仰の対象として本殿深く鎮座し、一般に公開されることのないご神体が、関係者のご厚意により、特別に時間を限っての公開となります。年の初めにあたり、この地に千年にわたり守り伝えられてきた神秘の至宝に触れてみてはいかがでしょうか。

- 日時：平成31年1月1日(元旦)
午前0時～午前2時／午前7時～午後2時
- 場所：江原浅間神社(江原1302)
- 申し込み：不要



ここがポイント!